



# みどりの風

公益財団法人  
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館  
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地  
 TEL&FAX 0743-92-0346  
 発行人 館長 上田 善紀  
 発行日 平成30年2月20日(火) 第11号

## 「こんな講座をしました」

〜味噌くし〜

1月12日(金)、7月の甘酒作りの引き続いて、「環奈月(かんなづき)」の皆さんにきていただき、本格手作り味噌の講座を持ちました。

「環奈月」は、第3号で紹介していますように、石打の料理愛好グループで、「奈良県高齢者生きがいワーク創設支援事業」に採択され、その助成金で麹発酵機などを取り揃え、味噌麹をはじめ甘糍、塩糍など古くから継承されてきた技法で生産活動をしています。



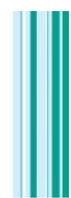
(左より) 山根慶子さん、西浦甲さん、辻井君代さん。講座を終えてほっとした様子でスナックショット。

## ■西浦甲さん(代表)：環奈月の活動

を一人でも多くの人に知ってほしい。メンバー8人、家族的な雰囲気の中で楽しく活動しています。この時期から、味噌作りの仕込みに入ります。私たちの味噌は麹を多くすること、甘口仕上がっています。

■辻井君代さん：これまでほぼそとやってきましたが、こうして公民館で取り上げてくれたことで、多くの人たちに知っていただくことができてもうれしいです。お米は石打産コシヒカリです。水が豊富で、粘土質の土壌なので、粘りのあるお米です。

■山根慶子さん：参加してくれた皆さんは、味噌作りについてよく知っていますので、こまばき作業をしてもらいました。添加物がなく、安心安全な食品にこだわっています。今日も私たちの活動がお役に立ててとてもうれしいです。

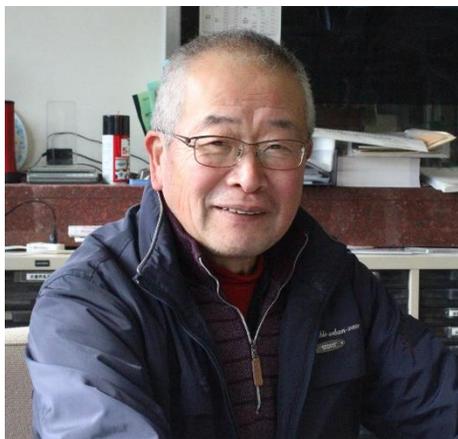


↑ 石打・寺脇にある環奈月の工房に掲げられている立派な表札は、井本 芳信氏による制作です。

## 農家民泊事業を受けて

「新たな観光資源に注目・活性化へ動き着実」という見出しで、1月3日付け奈良新聞に、奈良市プランド推進課が推進する農家民泊事業を引き受けている小西 功さん(長引)が大きく紹介されていました。

自宅を開放して高校、大学生ら教育旅行の宿泊体験を受け入れていきます。稲刈り、茶摘み、野菜の種まきや収穫、こんにやく作りなどの体験をメニューとしています。



農家民泊と月ヶ瀬の活性化について生き生きと語る 小西 功さん

■小西 功さん：もともと農家民泊事業に関心がありました。やってみて、他人を受け入れることで私たちが知らない情報に接し、世界が広がったように思います。様々な資格が必要となる民宿経営に比べて農家民泊経営のハードルは低いため、周囲の人たちとの協力、応援態勢ができれば地域活性化につながるのではないかと考えています。

## 月ヶ瀬薫風

1月の終わりに梅林をひと巡りしました。3月に実施する梅溪めぐりの下見のためです。

寒風のなかでしたが、茶店ではおもての戸を拭いていた、優勝会の方が溝の泥をあげていたり、観光客を迎える準備に余念がありません▼そして2月18日一、月ヶ瀬早春梅溪マラソンを皮切りとして、月ヶ瀬としての「立春」ともいえる「梅まつり」がいよいよスタートしました。公民館では、マラソン大会の選手の更衣場所となったほか、3月の俳句大会の会場となります。駐車場には、遠方のナンバープレートでいっぱいになることでしょうか▼ふる里は、如法の間に梅にほひ(丸山 佳子)



# ほしゅう

おはなし会「だっこ」では、メンバーを募集しています。一緒に絵本を楽しみませんか？男性も大歓迎！

※連絡の取次は、公民館がします。



リズム遊びを取り入れ、体をリラックスするプログラムもあります。



12月16日(土)、クリスマス控えてその日にちなんだおはなし会をしました。

## おはなし会

### 俳句会

小谷 ますみ・選

#### 1月の俳句 月ヶ瀬公民館より

枯れすすき風にあおられ丸坊主 利明  
 張りたての障子に洩れる朝日かな 雍子  
 クリスマス輝くツリー子の未来 和代  
 猿一匹大騒がせ冬(こ)こ 惠翠  
 石垣の反りの日溜り冬の蝶 由姫子  
 恐いもの知らず太平洋袖子の棘 節子  
 目指す町すつぼり入る夕焼 かつ野  
 冷え渡る汚れなき空濯ぎ干す すま  
 風師走(つ)ぼりの首ねねの道 ちず子  
 ミサイルも核も他人事山眠る 月城  
 粧ひを解きて平らに山眠る ますみ

#### 解説

○山眠る…冬季の山を形容した季語です。春は「山笑ひ」、草木が萌え始めた明るい春の山です。夏は「山滴る」、滴(したた)るような緑の山。秋は「山装つ」、紅葉に彩られた秋の山です。いずれも、なかなかよくできています。

○障子…「障子」も冬の季語に入っているんですよ。真新しい障子は、家中を明るくし、たいへん気持ちがいいものです。障子貼る「よむねは、冬を迎える準備(こ)こ意味合(こ)こ秋の季語」になります。

## 月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ



### 第22回社会福祉フェスティバル

2月20日(金)、月ヶ瀬地区社会福祉協議会主催(会長・徳家 眞さん)のふれあいフェスティバルが行われました。

メインは、月ヶ瀬中学校の取組、アルミ缶収集報告会で、福祉用具の贈呈式。平成7年から続く一大福祉ボランティア活動です。回収したアルミ缶が25万円という現金に変わり、2台の真新しい車いすと、入浴チェア1を福祉センターと香梅園に贈られました。

### 「取組の意義と責任の重さを…」

■稲森 修平くん(3年) …生徒数が減ってきて、1人1か所だった配り物が2、3か所を担当するなど一人当たりの仕事が増えてたいへんになった。でも、地域の人たちと先生の協力で、誰かに役立つことがかたちとして表れてとてもうれしい。

■辻 萌未さん(2年) …去年の贈呈式を横でみていて、来年は自分が渡す番だなあと思っていた。浴槽台を贈呈する役目になったが、どう渡したらいいのかとまどった。でも、みんなのリードとアドバイスで緊張しないで安心して役目を果たすことができました。

■中家 陸斗くん(3年) …ぼくたちがつづいたアルミ缶がお金になって、車いすなど福祉に関係したものに変わって、だれかの役にたつのかと思うと、とてもうれしい。安全安心に暮らせる世の中になるといいな。

■西浦 雄大くん(3年) …この役目を2年間やらせてもらった。去年は、単に贈呈品を渡すだけだったが、今回は、生徒会長として報告をする大きな役割を果たすことができた。感謝状をいただいたとき、この取組の意義と責任の重さを実感した。

↑(左から)稲森修平くん、西浦雄大くん、中家陸斗くん、辻萌未さん